

むし歯予防フッ化物洗口 職員説明会資料(抜粋)

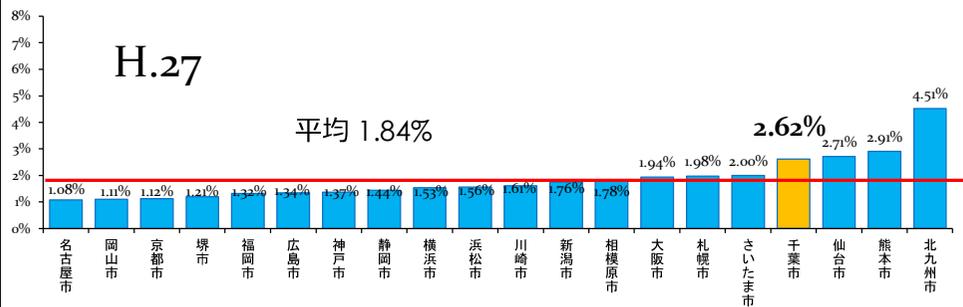
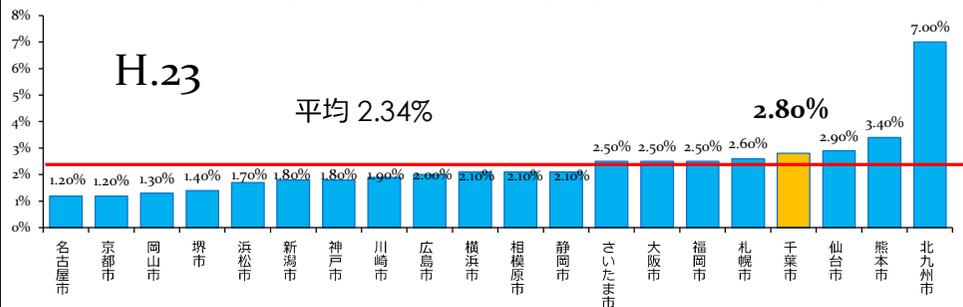
千葉市保健福祉局健康部健康支援課

2019.0.0.

①子どものむし歯の状況

2

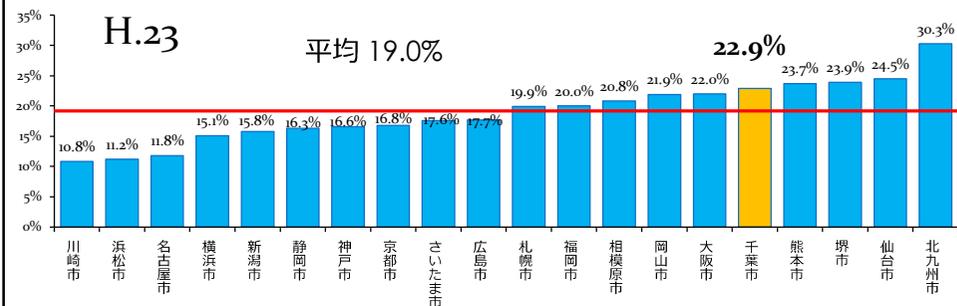
政令市1歳6か月児う蝕有病者率の比較



H24・H28年度政令指定都市母子保健主管課長会議資料を基に作成

3

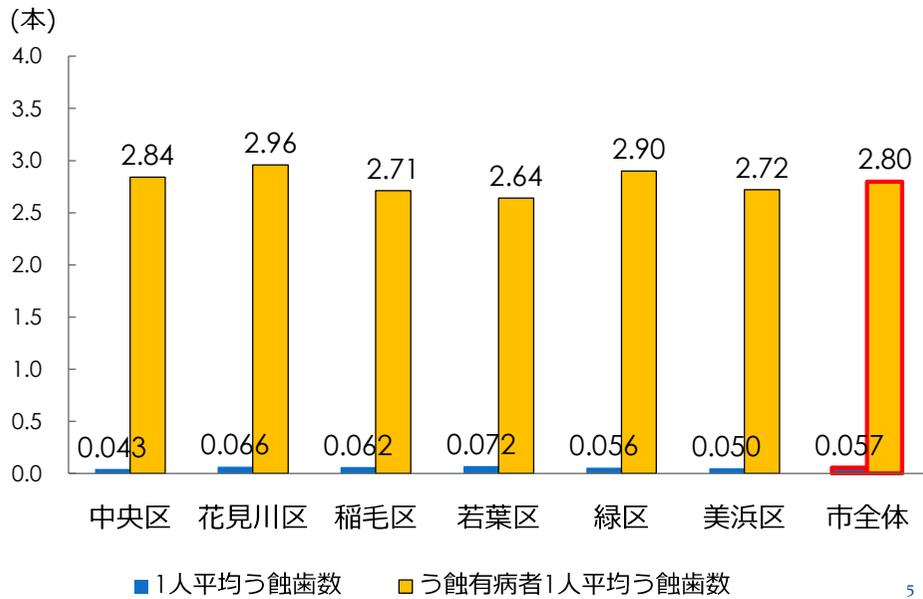
政令市3歳児う蝕有病者率の比較



H24・H28年度政令指定都市母子保健主管課長会議資料を基に作成

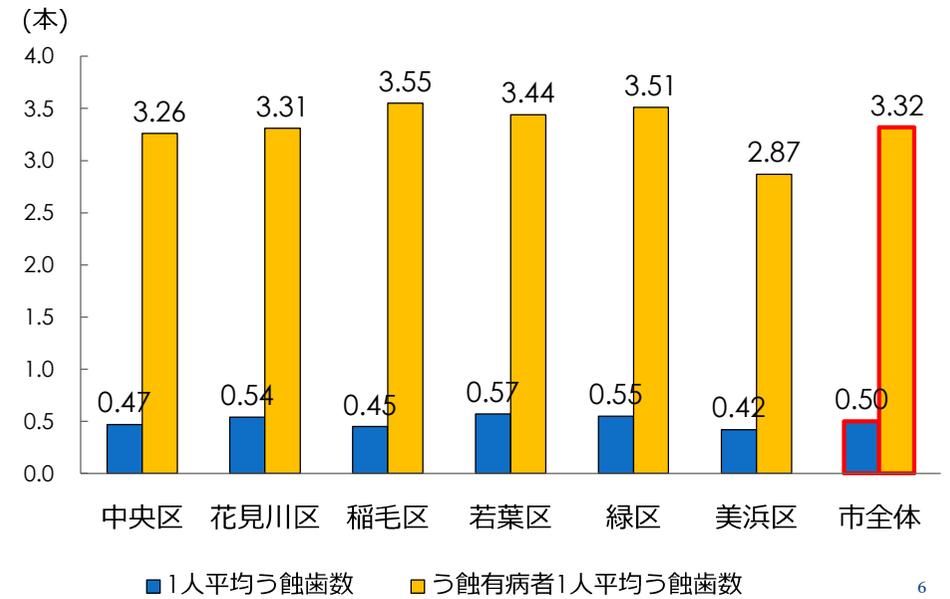
4

千葉市区別1歳6か月児の1人平均う蝕歯数とう蝕有病者の1人平均う蝕歯数 (H.29)



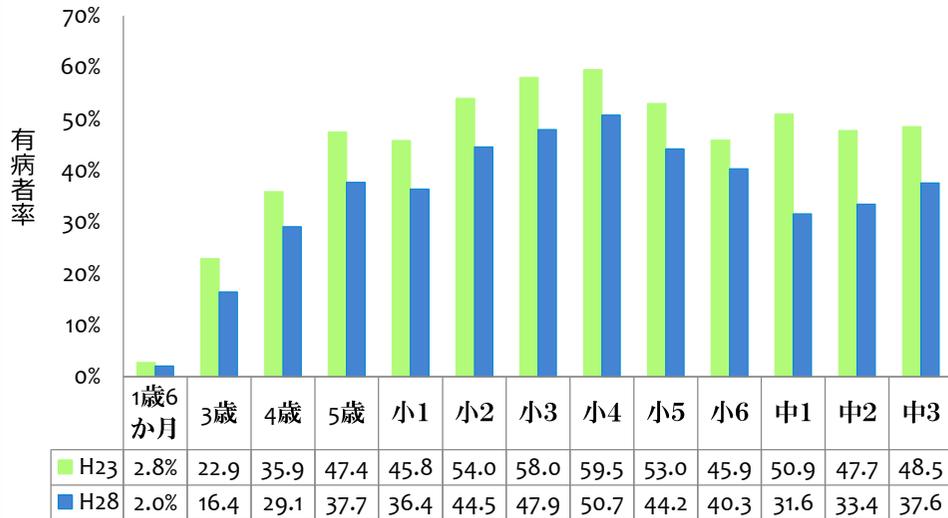
5

千葉市区別3歳児の1人平均う蝕歯数とう蝕有病者の1人平均う蝕歯数 (H.29)



6

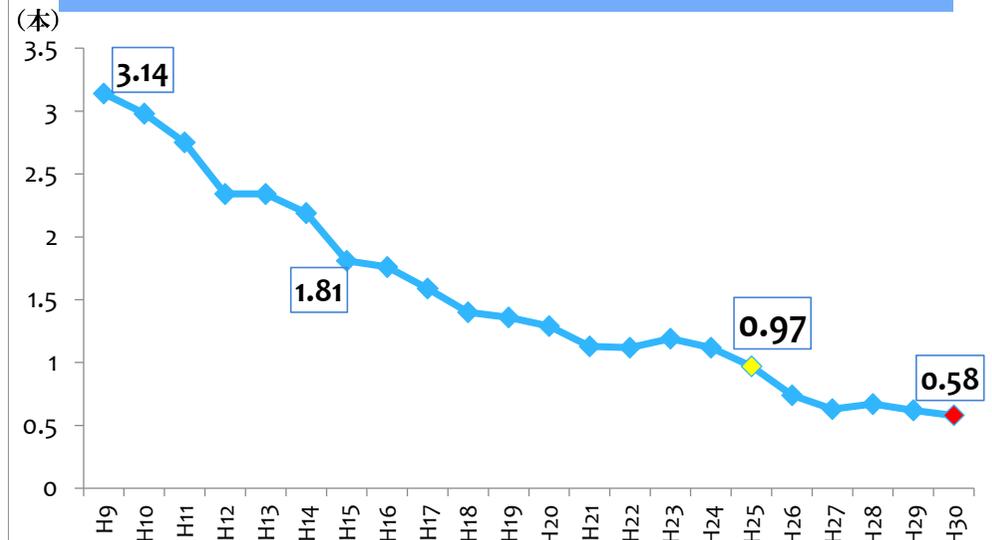
千葉市の幼児期・学齢期におけるむし歯有病者率 (H.23とH.28の比較)



7

1歳半・3歳：千葉市1歳半・3歳児歯科健康診査結果
4歳・5歳：千葉市公立保育所の歯科健康診査結果
小1～中3：「千葉市の保健体育」

千葉市の12歳児の一人平均むし歯本数年次推移 (H.9～H.30)



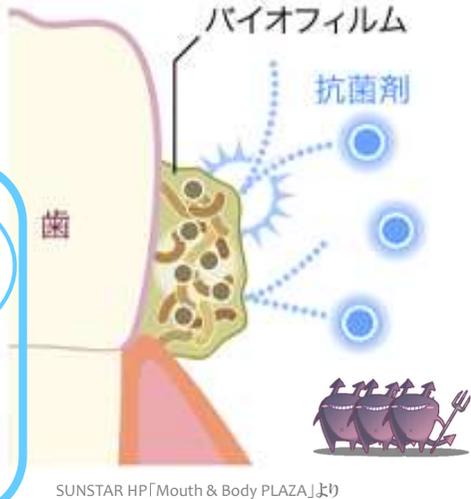
8

H.9～H.29「千葉市の保健体育」中学1年生のデータ

むし歯菌は歯にへばりつく

プラーク(歯垢) = 菌のかたまり

- むし歯菌が群れてへばりつく
- 抗菌剤が効かない



13

SUNSTAR HP「Mouth & Body PLAZA」より

むし歯予防のガイドライン(米国・予防医療研究班)

予防方法		証拠の質	勧告の強さ
フッ化物	全身応用 フッリデーション フッ化物錠剤(6~16歳児)	II-1 I	A
	局所応用 フッ化物洗口 フッ化物配合歯みがき剤 フッ化物歯面塗布	I	A
シーラント		I	A
食事のコントロール	甘いものを控える	II-1	A
	就寝時の哺乳びん使用を控える	III	B
個人的な歯科衛生(フッ化物非配合歯みがき剤、フロス)		III	C
定期歯科検診		III	C

証拠の質
I II III IV
強 ← 弱

勧告の強さ
A B C D
強 ← 弱

* :米国におけるう蝕予防とコントロールのためのフッ化物応用に関する推奨 口腔保健協会,2001
**:米国予防医療実践ガイドライン 1993

③ フッ化物を応用したむし歯予防

15

フッ化物について

フッ化物は「フッ素(F)」の無機化合物
フッ化物として自然界の中に広く分布



16

フッ素は多くの食物にも含まれている



フッ化物のはたらき

- ◆ 歯質の強化・耐酸性向上
 - 結晶性の改善
 - フルオロアパタイトの生成
 - 初期脱灰部の再石灰化の促進
- ◆ 酸産生の抑制
 - 細菌の酵素作用の抑制



出典：(株) コムネット

フッ化物を使ったむし歯予防法



各種フッ化物応用方法のむし歯抑制効果

方法	用いられるフッ化物	フッ化物イオン濃度	抑制率 (永久歯)
フッ化物歯面塗布法	NaF (2%NaF溶液)	9,000ppm	20~40%
フッ化物洗口法	NaF (毎日法0.05%)	225ppm	20~50%
フッ化物配合歯磨剤	NaF	1,500ppm	15~30%

フッ化物洗口

	フッ化物濃度	使用液量 /1回分	洗口時間
毎日常法	0.05%NaF溶液 (225~250ppm)	5ml 7ml 10ml	30秒~1分間
週一回法	0.2%NaF溶液 (900ppm)		

- ✳ うがいが出来れば実施可能
- ✳ 洗口後30分間飲食しない

21

もしも洗口液を飲み込んでしまったら？

フッ化物経口投与中毒量（（財）日本中毒情報センター）

中毒量：約5~10mg/kg

消化器症状：約3~5mg/kg

フッ化物洗口とフッ化物推定中毒量（PTD：probably toxic dose）

製剤	フッ化物濃度		1回使用量		推定中毒量	
	NaF %	F ppm	洗口液量	F量	15kg児童	20kg児童
NaF洗口液	0.05	230	5ml	1.15mg	320ml	430ml
NaF洗口液	0.20	910	10ml	9.10mg	82ml	110ml

adapted and modified from Whitford G. M., J. Public Health Dent., 1992

22

テーマパーク8020 (https://www.jda.or.jp/park/prevent/index05_05.html)から

各都道府県知事殿

医政発第0114002号
健発第0114006号
平成15年1月14日

厚生労働省医政局長
厚生労働省健康局長

フッ化物洗口ガイドライン

健康日本21における歯科保健目標を達成するために有効な手段として、フッ化物の応用は重要である。

4歳から成人、老人まで広く適応される。特に4歳（保育園・幼稚園児）から開始し、14歳（中学校）まで継続することが望ましい。その後においてもフッ化物は生涯にわたって歯に作用させることが効果的である。

実施方法

フッ化物応用

薬剤管理

安全性

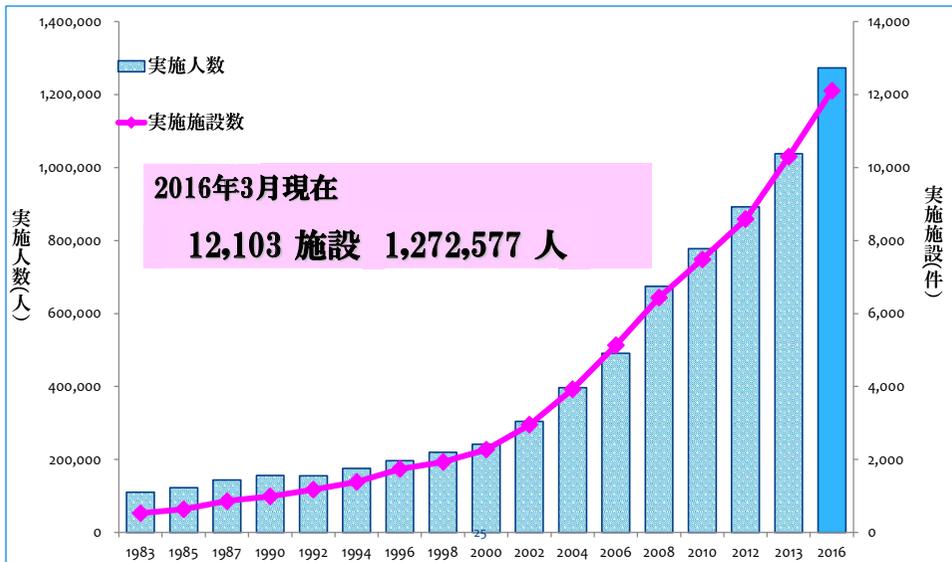
アレルギーや
病気との関連

フッ化物洗口ガイドラインより

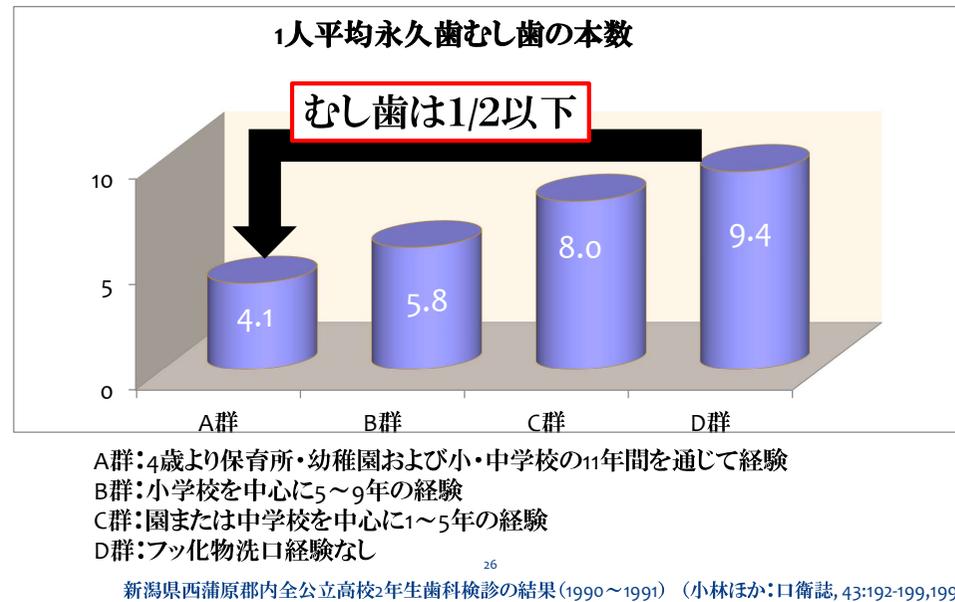
- * 誤って全量飲み込んでみただちに健康被害が発生することはない
- * 身体が弱い人や障害をもっている人が特にフッ化物の影響を受けやすいということはない
- * 腎疾患の人にもう蝕予防として奨められる方法である
- * アレルギーの原因となることもない
- * 骨折、ガン、神経系および遺伝系の疾患との関連などは、疫学調査等によって否定されている
- * フッ化物洗口とフッ化物配合歯磨剤とフッ化物歯面塗布を併用しても問題はない

24

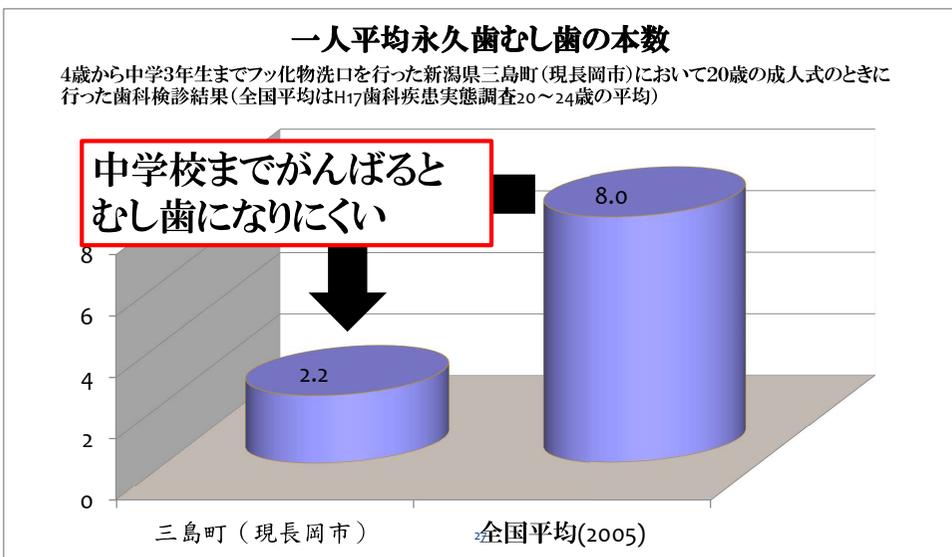
全国集団フッ化物洗口実施施設数・実施人数の推移 (1983~2016)



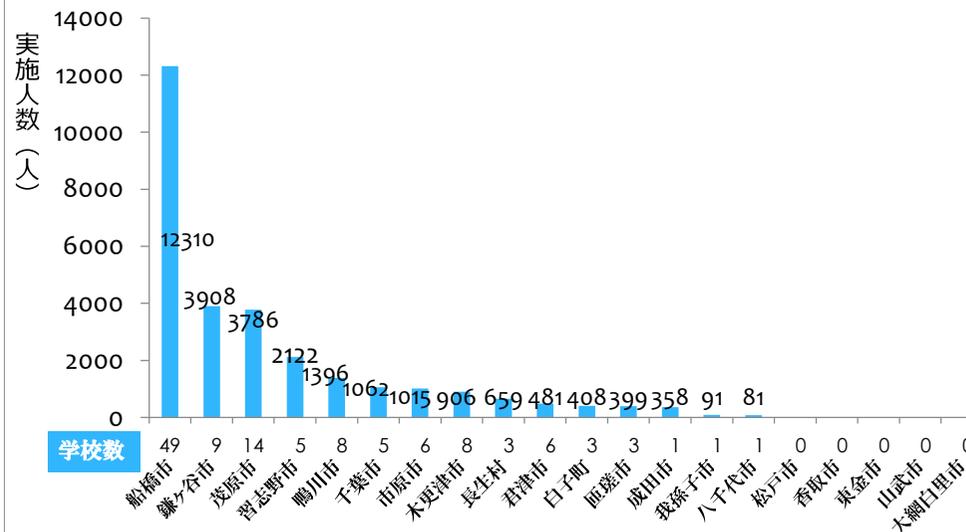
4歳から中学3年生まで続けるとむし歯は半分に減る



フッ化物洗口終了後も予防効果は持続する

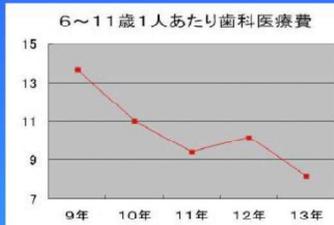
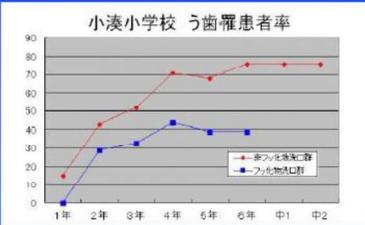
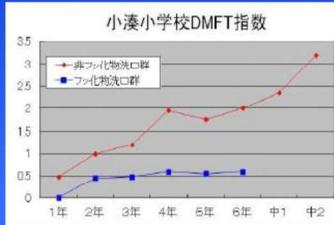


千葉県内市町村別小学校フッ化物洗口実施状況



千葉県内でのフッ化物洗口実施事例

1995～現在 鴨川市のフッ化物洗口事業によるう蝕予防効果



(フッ化物応用の手引-フルオライドAtoZ-, 2003年) 18

第2回歯科口腔保健の推進に係るう蝕対策ワーキンググループ 委員提出資料3 (H.30 12. 19.)

なぜ園・学校で行うとよいか

- ★むし歯予防に最適な時期：歯の生え変わる時期
- ★みんなで協力して、健康づくりのよい習慣を習得できる。
- ★希望する全ての児童を対象にできる。
- ★長期間継続して実施できる。

